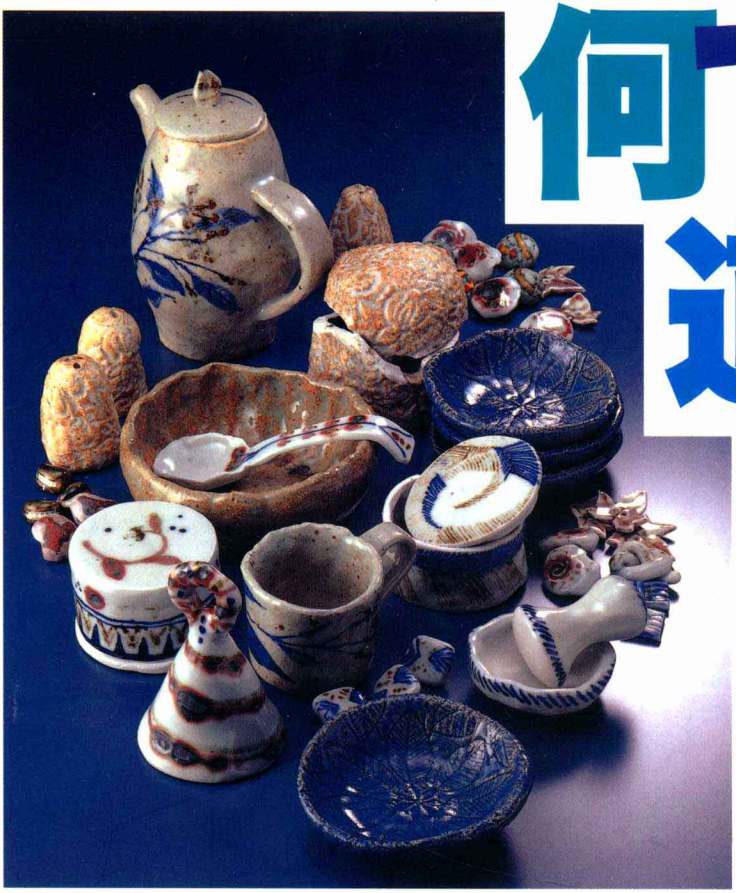
やきものをつくる

どこでもアトリエ、何でも道具

白石齊・白石孝子



陶磁郎BOOKS

白石 齊[しらいしひとし]

1935年、岡山県に生まれる。
陶芸家、デザイナー。

白石 孝子[しらいしたかこ]

1948年、北海道に生まれる。
画家。

〈陶磁郎BOOKS〉
やきものをつくる どこでもアトリエ、何でも道具

著者……白石 齊・白石孝子
発行者……井上功夫
発行所……株式会社双葉社
162-8540◉東京都新宿区東五軒町3-28
電話◉[営業]03-5261-4818/[編集]03-5261-4837
印刷・製本……共同印刷株式会社

©Shiraishi Hitoshi & Shiraishi Takako 1998 Printed in Japan/禁無断転載複製
落丁・乱丁本は本社にてお取り替えいたします。
定価・発行はカバーに表示してあります。
ISBN4-575-28882-9 C0076

¥1700　1998年10月5日 第1刷発行

陶磁郎
BOOKS

やきものをつくる

どこでもアトリエ、何でも道具

白石 齊・
白石孝子

双葉社

リーツ学園図書館

まえがき

白石孝子

私は長く絵を描いていて、学生時代に少し彫刻も学んでいたので、粘土を扱う事も普通の人よりいくらか上手だ。しかし、自分で陶器を最初から最後まで手順通り作った経験はない。

陶芸を仕事にしている夫から、「このやきもの作りの本に協力して欲しい」といわれた時、何故、素人の私がやきものの技法書にかかわらなくてはいけないのか、よく理解出来なかった。でも、こうやって焼き上がったものを並べて見ていると、粘土を手にしている時の魅力的な時間と、

作っている間中感じた、絵を制作している時とは違う期待と不安が蘇って来て、いいようのない充実感に充たされる。

陶器作りというと、手間暇かける面倒な作業と、それにまつわる、専門的な道具を取り揃えなければならない、という「道具信仰」が前途を邪魔する。それに日本はやきものの国だから、伝統や歴史についても学ばなければ、という思い込みがあるかもしれない。でもよく考えてみると、〝土をこねて成型をし、焼くことによって仕上がる〟というのは、

本当はクッキーやパンを作るのとよく似ている。そこに技が入って来るのは、その積み重ねのうちに〝造形のミューズが手を差し伸べてくれるかどうか〟なのだと思えば良い。

クッキー作りやパン焼きは、日常の食事作りでありながら、何か特別な期待が潜んでいる。それは粉末のものが、きちんとした形となって現れて来る変化が見られるからかも知れない。私も子供が小さかった頃は、毎日のようにパンやクッキーを焼いていた。キッチンにはそれらを作る道具や材料がいつも手近に置いてあって、何時でも作れるようにしていた。今でも一寸気分転換したい時や、来客の時には、自分でケーキを焼こうかなという気が起きる。私は、最も心のこ

もったおもてなしをするには、自分で手作りしたものが一番だと思っている。そこに自作のやきものがあれば、もっと素敵なおもてなしになるだろう。

難しくて手間のかかる陶器作りが、もしパンやクッキーを焼くのと同じような気持ちで出来たとしたら。「窯変」とか「わびさび」とか、「肌合い」の渋さとかを出来上がりの目標にしないで、もっと気楽に日常のテーブルウェアとして使えるおしゃれな陶器作りが出来たとしたら。きっと生活が、もっともっと輝いてくるだろう。

そんな思いで挑んだのが、本書のやきもの作りだった。自作のカップやポットを使ってお茶を飲む。想像しただけでも心が弾んでくる。陶芸の

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

たのしみが、肩ひじ張った難しいものではなく、ロクロや道具がなくても家庭で出来るとしたら、すぐやってみたいと思いませんか。

「日常の心のすき間を埋めてくれる」。やきもの作りは、そんな期待を抱かせてくれる。

もし貴方が陶芸に余り精通していない人であれば、不安と期待は大きいと思う。また、すでに陶芸を始めていて、難しさを感じ始めている人であれば、もう一度初心に返って欲しい。そして、かなり陶芸に詳しい人であれば、概念の転換こそは新たな創造の始まりであると思ってはどうだろう。

陶芸作りに必要なのは、わずかなスペースと、工夫して作り出す時間。そして、何よりも情熱、そして意欲。意欲さえあれば、正式な陶芸道具は無くとも、身の回りにある若干の道具たちが活躍してくれる。それと、陶器作りに肝心なのは、失敗を恐れない心である。「失敗」こそが、陶芸の醍醐味といっても良い。

パン作りだって、最初はボソボソになったり、固くなったりするものだ。

失敗をくり返しても、出来上がったものは宝物に思える。そして苦労を乗り越えた時の感動は、また格別ではないだろうか。そんなピュアな心で、陶芸に挑戦して欲しいと思う。

今回この本では、モーニングコーヒーのセットを中心にして、コーヒーポット、カップ&ソーサー、バターケース、シュガーポット、小皿などを手掛けてみた。道具もその辺に

ころがっているカッターナイフや竹串、酒の瓶やお茶の缶、レース布や果物などだった。アイディアをしぼって考え出した方法は、陶芸を試みている人に大きな自信を与えると思う。お金を出せば何でも手に入る時代、せめて生命を支える食事の時間を色どる器の一つを、自分の手で作ってみる喜びを是非体験してみて欲しい。

幾ら手軽にとはいえ、陶器作りはさまざまな工程を経なければならない。焼き上げるまでは、いつも心をそちらに向けていなければ、途中でヒビが入ったり、割れたり、いびつになったりする。それは花を咲かせたり、子供を育てたりするのに似て、ハラハラドキドキの連続である。

そのハラハラドキドキの刺激は、新しいアイディアを生み出すエネルギー源となる。最近は、全国の至る所に、陶芸材料店や陶芸教室がある。その便利さや豊かさも、どんどん利用してみよう。陶器作りの友だちを作って、あるいは子供と一緒に、品評し合いながら楽しめば、また新しい発見があるかも知れない。

この本に接することによって、陶芸に特別な約束事なんて無いんだという事を分って頂く。そして、「作りたい」という衝動を促すものは、いつも「あっ」と驚く感性と実行力、それに少しの知恵と工夫があれば、道具や技法は二次的なものだという事が、お伝え出来たらと思う。

目次

まえがき
白石孝子……002

かたまりから始める……009
はんこ……010
ドアノブ、フック……016
ボタン……020

めん棒でのばす……031
バターナイフ、バターケース……032
ベル……042

布切れが模様を作る……053
シュガーポット……054
塩、こしょう入れ……062

本書の簡単やきもの用語……008

下ごしらえ

❶土の準備と保管……028
❷とちん作り……050
❸蓋ものの処置……070

アトリエ

❶キッチン……030
❷テラス……052
❸ダイニングテーブル……072

身近なもので型どって……073

スプーン……074
りんご皿、かぼちゃ鉢……080
コーヒーポット……086
カップ&ソーサー、クリーマー……100

企画・編集……入澤企画
制作事務所［入澤美時＋合田真子］
やきもの制作指導……白石齊
やきもの制作・イラストレーション……白石孝子
撮影……木村羊一
アートディレクション……鈴木一誌
デザイン・レイアウト……後藤葉子・加藤昌子・大竹左紀斗
作図……河合理佳
手動写植……長久雅行
カバー製版……西川茂

本書の簡単やきもの用語

工程で節目節目に使われる、やきものの用語や印は、以下のようになっています。

工程について

成型[せいけい]土をこね、丸め、のばし、削り、くりぬき、貼り合わせるなどして、そうした形が出来るまでの工程の総称。

乾燥[かんそう]乾燥には、成型のための乾燥と素焼きのための乾燥がある。前者は、削りなどの細工をしやすくするため、半日〜一日行い、少し乾かすこと。本書では工程の説明中に、この成型のための乾燥を、下の印で示している。……▼

素焼き[すやき]成型を終えた後、一週間から一〇日かけて完全に乾燥させ、その後に、900〜1100°C前後で焼く、一度目の焼成。下の印で、これらの時間と工程の経過を表す。……▼

絵付け[えつけ]器体に絵柄を描くこと。下絵付けと上絵付けがある。下絵付けは、素焼き後の器体に、呉須、酸化鉄、銅の下絵の具で絵柄を描き、その上に釉薬を掛けることをいい、上絵付けは、釉薬を掛けた本焼き後の器体に、上絵の具で描き、低火度で焼成することをいう。この本での絵付けは、すべて下絵付けのこと。

釉掛け[ゆうがけ]素焼き後の器体に釉薬を掛けること。釉薬は本焼きされ、熔けてガラスの膜になることで、素焼きの素地を保護、強化する。

本焼き[ほんやき]絵付け、釉掛け後に、器体を硬く締め、釉薬を熔かして発色させるための、二度目の焼成。1200〜1300°C前後で焼く。下の印で示す。……▼

材料について

陶土[とうど]地中から掘り出した土を、いったん水に混ぜ攪拌して、雑物を取り除いたり、粒度を整えたりして、使いやすく調整した、陶器になる土。

半磁器土[はんじきつち]陶土に、磁土(地中から掘り出した白い石(陶石)を砕いて練ったもの)を混ぜた土。もしくは、陶石に、長石や珪石を加えたもの。陶土の扱いやすさと、磁土の白く硬質な仕上がりの、両方を兼ね備えた土。

白化粧土[しろげしょうつち]カオリンを中心とした、白い陶土のこと。水でゆるく溶いて、成型後の器体に薄く塗り、白く装飾する。

[文責=編集部]

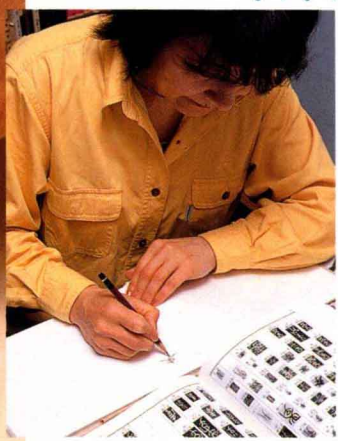
かたまりから始める

一塊の小さな土。
それを押したり、つまんだり、
とにかく、自分の手と指を使って
形を変えてみよう。それだけで、
日常のさまざまな場面をいろどる
小物が生まれてくる。
指輪やペンダント、ボタン、カフス。
ホルダー、メダル。はんこやペーパーウェイト。
スパイスミル、箸置き、ナプキンリング。
既成のものと接続すれば、ドアノブ、フック、
スプーンやフォーク、たんすの取っ手。
どこにも同じものがない作品たちは、
自分が作ったという満足感とともに、
個性的なライフスタイルを生み出してくれるだろう。……白石齊

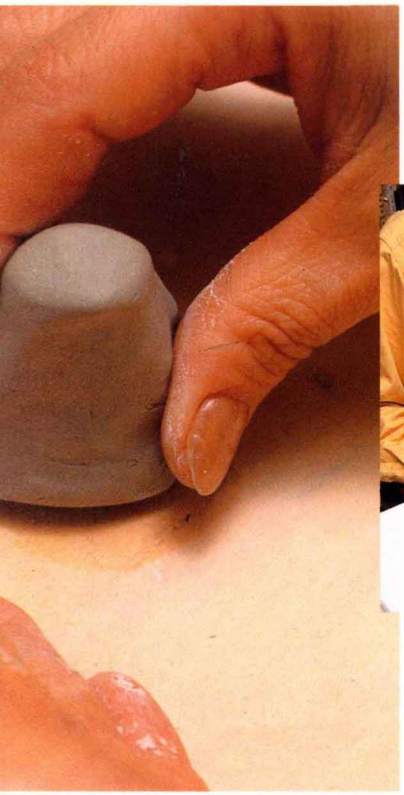
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

はんこ

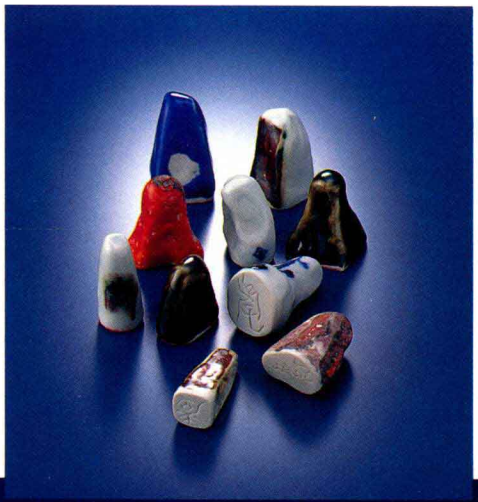
土をころんと丸めて一カ所を平らにし、
そこに字や絵を刻めば、はんこの出来上がり。
素焼きの後も削れ、細かな細工も出来る
半磁器土の性質を生かした作品だ。
オリジナルのはんこは、いくつ持っていても楽しい。
一つの成型には、一〇分もかからないので、
気軽に好きな図案に挑戦してみよう。



篆刻辞典は、作りたい書体をひろい出すのに便利。見て書き写すのに自信がなければ、コピーしてなぞっても良い。



持ちやすさ、押しやすさを考えながら作る。



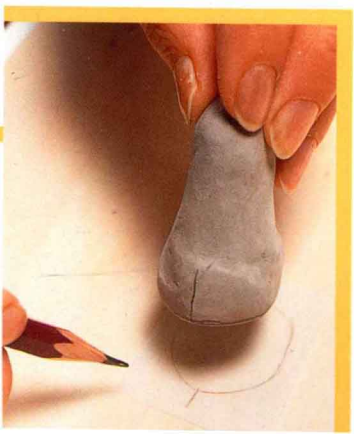
一番左のもの＝高4.5cm、
印面の直径2.0cm。

かたまりから始める

成型

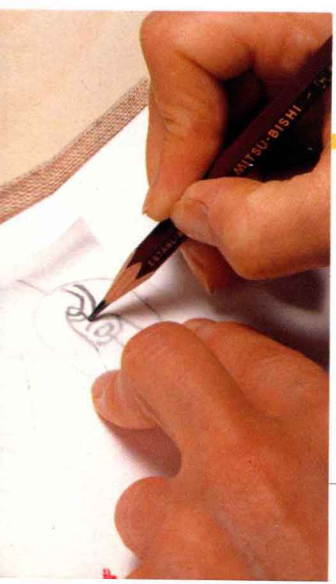
材料●半磁器土（一個につき約50g）
使うもの●ベニヤ板／千枚通し／竹串／鉛筆（2B）／化粧用チークブラシ／トレーシングペーパー／紙やすり／どべ／水

1



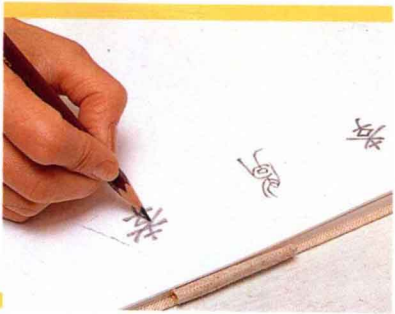
文字を写し取る
小さく切ったトレーシングペーパーに、印面の輪郭を写す。もう一度合わせられるように、しるしをつけておく。

2



トレーシングペーパーを置き、字をなぞる。

下準備
字を用意しておく。コピーでも良い。



形を作る
適量の粘土を取り、丸めて、持ちやすい形に整える。あまりこねないこと。

1

板に軽くトントンとたたきつけ、はんこにしたい字の大きさに合わせた印面を作る。

2

3

水をつけてならし、表面を整える。伏せて乾かす。

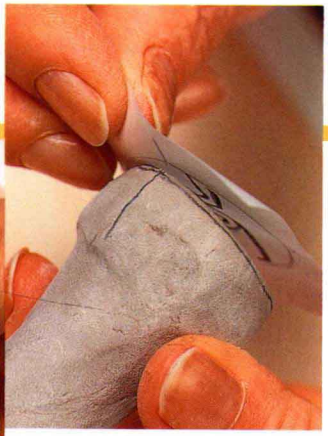
乾燥

乾燥の場所

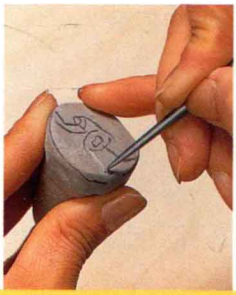
一般に、成型→削り、接続→素焼きまでの乾燥は、室内でゆっくりと行うのが良い。直射日光にあてると、部分的な水分バランスが狂い、焼成前後のひび割れの原因になる。ポット（八六～九九頁）などの蓋ものは蓋をしたまま、バターナイフ（三二～四一頁）のような平たいものは、時々ひっくり返して平均的な乾燥を促す。

乾燥後に目の細かい紙やすりを机などに置き、こすりつけると、よりシャープな面に。

3



鉛筆の芯のついた面を、しるしを合わせてあてる。一度合わせたらずらさない。



4 時々確認しながら竹串でなぞり、印面に字を写す。

5 写した字を削る。溝に入った粉をはらうのは、チークブラシが便利。

かたまりから始める

絵付け、釉掛け

材料●下絵の具（酸化鉄、呉須、銅）／透明釉

使うもの●筆／乳鉢／小皿

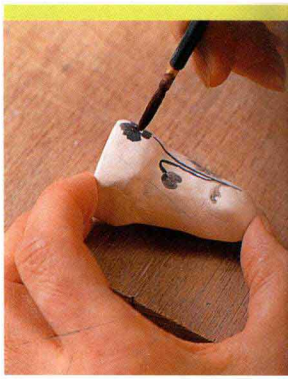
2 印面を伏せて立て、透明釉を上から塗る。

3 印面に釉が掛からないよう、この位塗り残す。

4 塗りすぎたら、Tシャツのはぎれなどのやわらかい布の上でこする。こすりすぎて印面を傷つけないように。

素焼き

1 押す時に文字の方向が分るよう、ポイントを置いて描く。



本焼き

出来上がり。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com